



松江土建 株式会社

事業内容

総合建設業

創業 昭和19(1944)年5月9日
 代表者 代表取締役社長 平塚 智朗
 社員数 192名(男165名 女27名)
 本社 島根県松江市学園南2-3-5
 電話 0852-21-3521

採用エリア(勤務地)

島根県全域、鳥取県西部地域

採用担当者からあなたへ

松江土建は、土木・建築工事などを通じ、経営理念に掲げる「そこに暮らす人々の幸福を追求する」企業活動を行っています。常に「感謝・敬意・称賛」の心を持ち、実践できるコミュニケーション力(=人間力)の高い仲間を求めています。地域に貢献するため、一緒に働きませんか!



常務取締役 総務部長
矢田 肇さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0852-21-3004

採用直通 E-mail

mdoken-somu@matsue-doken.co

公式サイトはこちら



求人サイトはこちら



リフォームを題材にしたTV番組がきっかけ
現場監督としてコミュニケーションを大切に

さまざまな問題を抱えた家が、一流建築士のリフォームで生まれ変わる様子を紹介するテレビ番組を見て、建設業界に関心を持つようになりました。現場監督として、施主様や作業員さんら多くの人と一緒に仕事をしますが、伝え方次第で相手の気持ちや提案の引き出し方が変わり、コミュニケーションの大切さを実感しています。想像よりずっと上司や先輩が優しく(笑)、笑顔の絶えない職場なのでモチベーションも高まります。

建築部 工事課 係員
曾田 みづきさん(21) 2022年入社



測量も一人でスピーディに実施
建設業界のICT化を現場で実感

今春から、山陰道湖陵多伎道路整備の現場に入り、進捗状況の写真撮影や安全通路の確保、熱中症対策などを担当。一人で測量できる機械も配備されていて、現場のデジタル化を実感します。松江工業高等学校時代はバレーに打ち込み、全国大会にも出場。求人を機に建設業界を意識し始めましたが、何もなかったところから物が出来上がっていくのは、この仕事の醍醐味。経験を重ね、工程管理なども担えるようになりたいです。

土木部 工事課 係員
安倍 凌介さん(20) 2022年入社



弱冠28歳で現場責任者に
現場は安全に。仕上がりは美しく

初めての現場所長として、4階建ての公共建築物の外壁塗装工事を担当。築30年以上経過した施設を、塗装・防水施工などで長寿命化を図っています。工事中も施設は一般市民に開放されているので、利用者らの安全確保は最優先。天候に左右されたり、想定外の工事が発生したりして、思っていた以上にイレギュラーの対応が求められることも多く大変ですが、出来る限り建物の状態が良く仕上がるよう努めています。

建築部 工事課 副主任
金築 高志さん(28) 2018年入社



進む建設現場のDX化
時間軸を加えた4D技術も活用

設置から80年以上が経過して老朽化している鍛冶橋の架け替え工事を担当。住宅や繁華街に隣接した地域でもあり、住民説明会などで丁寧に説明した上で、振動や騒音を抑える工法を採用しています。建設現場のDX化は近年目覚ましく進んでいて、今は従来の3次元CIM/BIMに加え、時間軸を加えた4D技術を推進。実務だけでなく、説明会の資料としても活用しています。地域ファーストで事業を進めたいです。

土木部 工事課 作業所長
岸本 健一さん(43) 2013年入社



社員の幸福を考えた
充実した福利厚生

入社時より、福利厚生や教育制度が著しく向上しました。男性の育休取得も徐々に広がり、今夏には現場の土木部社員が3週間取得。社員も驚いた高額出産祝い金に加え、子ども一人あたりに月々支給される家族手当も従来から整備されています。若手・中間管理職のマネジメント教育を強化し、最近では20歳代後半で数千万円以上の規模の現場責任者を任される方もいます。社員の幸福を考えてくれる会社だと実感します。

総務部 総務課 係長
仲佐 喜美子さん(52) 2007年入社



1 建設現場のDX化は急速に進んでおり、3Dデータやドローン、AIの活用で安全性、効率性も著しく向上している。デジタル技術に強い若者への期待が大きい 2 スタイリッシュなフォルムの本社社屋 3 秀でた技術力やデザイン力を実感できる開放的なエントランスホール 4 非同族企業の松江土建。9代目平塚社長は同社の営業出身だ

まつえどけん
松江土建 株式会社

街、暮らし、未来を創る
地域密着の総合建設業

64
LEADING COMPANY

難工事に果敢にチャレンジ
福利厚生も業界トップ級

1944年の創業以来、市民生活の基盤を支える土木工事と付加価値の高い建築物工事を中心に、地域に密着した総合建設業を展開してきた《松江土建株式会社》。毎日のように車で通る幹線道路やトンネルから、松江市総合体育館や県立美術館などの各種建築物まで、島根県東部においてはお社が手掛けた事業を目にした日がないと言っても過言ではない。約10年前からは、土木・建築に次ぐ第3の柱として住宅事業もスタート。数々の大プロジェクトを実現させてきた技術力と経験を強みに、新分野にも果敢に挑んでいる。

現在建て替えを進める松江市役所新庁舎の建設主体工事も、他2社と共同で受注。地上6階地下1階建て、延べ床面積約2万5000㎡におよぶ大規模工事で、着工から約2年半後の今春、南側部分の運用が始まった。平分ずつ壊して建てて引越すという大変な作業な上、免震工事も施す必要がある、過去経験したことがないようなチャレンジ」と息を吐く平塚智朗社長(64)。「ただ当社には、かつて大手ゼネコンが独占していたような難工事も担える実力がある」と自負しています。残り半分、

安全に納期までに仕上げられるよう全力を尽くします。その横顔には、地元業界のリーディングカンパニーとしての誇りがにじみ出ている。建設業界のDX化が進む中、昨年デジタル技術を専門的に対応するIT・技術部を新設。既存部署をブラッシュアップさせた形で、現場支援も積極的に行っている。また、評価の透明性を高めた人事制度を導入。社員のモチベーションアップを図る一方、給与制度も見直して平均5%の昇給を実現した。

業界の常識にとられない働き方改革にも注力している。今春から、県内業界でもいち早く完全週休2日制を導入。また、男性の育児休業取得を奨励しつつも、現場監督を担っていると取りにくい実情を踏まえ、従来の出産祝い金を大幅に加算した。一人目で20万円、4人目では50万円という破格の金額だ。

資材高騰や職人の減少など業界を取り巻く状況が厳しい中、平塚社長が声を大にして訴えるのが、業界全体の環境改善。「一体となって取り組まなければ建設業全体がダメになる」。一方、今後、社業発展の軸に据えるのは民間建築だ。「建築物に求められるのは民間建築だ。「建築物に求められるレベルは以前より高く、大きくなっている。公共工事で培ってきた技術力を生かしていきたい」